

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文庫	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED-mail20070106.0058	2006年12月23日、ケニアGarissaの公立病院に入院した患者複数の症例から、リフトバレー熱のヒトでのアウトブレイクが初めて確認された。IgM及びPCRにより確定診断された。同地区での発病率は、19/10万人で、最高値は最初に患者が見つかったShanta Abakの129/10万人である。2007年1月5日現在で188例に達し、うち68例が死亡した。2007年1月4日、ケニア北東部のJara地区でリフトバレー熱の新規疑い例8例が発見された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病(CJD)が残存する可能性が明らかとなった。エンジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mmあたり0.2μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。検大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健者に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl. 3): 68-69	米国で供血後に古典的CJDを発症した個人を特定し、受血者の追跡調査を行った。2006年2月までに、古典的CJDで死亡した供血者31名が試験に登録され、384名の受血者が特定された。追跡を行ったところ、古典的CJDが輸血を介して受血者に伝播したという証拠は示されなかった。本研究は、1995年に米国の大規模血液供給システムと疾病対策予防センター(CDC)により開始され、継続中である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイピー22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルトヤコブ病病原体に感染した培養下部GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PPや原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPP抗体でラベルされず、ホルボールエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PPや脳病変を誘発するTSE原因因子である可能性がある。